

2021 年度 MS 自己点検・評価報告書

構成: 報告書(本資料)・各部署自己点検報告書

I はじめに

開学 100 周年を迎える 2026 年を目標年として策定された「MS-26 戦略プラン」の推進にかかり、各部署では毎年度事業進捗状況の自己点検・評価を実施している。2021 年度からは、これまでの「MS-26 戦略プラン」の進捗状況を点検・補完するために、より重点を置く目標達成のための具体的内容を、「中期事業計画」として改めて明確化した。これらのPDCAサイクルを回すことで、2022 年受審予定である第 3 期大学認証評価において、重視される内部質保証体制が一層充実すると考えられる。本報告書は当該年度事業結果の自己点検・評価を「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに取りまとめることで、本学全体の内部質保証体制のチェック機能を担っている。

II 本報告書 作成から活用までの流れ

【2 月】各部署は年度当初に策定した事業計画に対し、自己点検・評価を実施し、その結果を報告書として総合企画部に提出。

【2 月】総合企画部にて事業内容を確認。自己評価を参考に、「MS-26 戦略プラン」のドメインごとに「実績・長所」及び「課題」を取りまとめた。

【3 月-】学長スタッフ会議・大学評価委員会等で本報告書内容を共有することを通じて、改善活動を推進する。

III MS ドメインごとの自己評価結果

評価 A. 目標を上回る取り組みをし改善した B. おおむね目標通りの取り組みをし改善した C. 取り組みはしたが改善していない D. 十分に取組みせず改善していない

MS ドメイン別事業		評価 A		評価 B		評価 C		評価 D		判定不可		総計
		事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	事業数	%	
大学	01-1: 人材の確保と育成 / 学生	30	27%	51	45%	10	9%	11	10%	11	10%	113
	01-2: 人材の確保と育成 / 教職員	30	32%	51	54%	9	9%	5	5%	0	0%	95
	02-1: 教育の充実 / 学びの促進	44	22%	121	61%	26	13%	6	3%	3	2%	200
	02-2: 教育の充実 / 大学院	21	19%	63	57%	23	21%	4	4%	0	0%	111
	02-3: 教育の充実 / 学生支援	17	25%	35	51%	5	7%	7	10%	5	7%	69
	03-1: 研究の充実 / 研究推進	7	18%	23	58%	9	23%	1	3%	0	0%	40
	03-2: 研究の充実 / 国際的研究拠点	4	25%	6	38%	5	31%	1	6%	0	0%	16
	04-1: 社会貢献	9	18%	24	48%	9	18%	6	12%	2	4%	50
	05-1: 組織・経営改革 / 組織の活性化	13	33%	24	60%	1	3%	1	3%	1	3%	40
	05-2: 組織・経営改革 / ブランド力の向上	4	17%	9	39%	6	26%	4	17%	0	0%	23
	05-3: 組織・経営改革 / 基盤整備	14	29%	22	46%	7	15%	4	8%	1	2%	48
高校	01: 人材の確保と育成	1	20%	3	60%	1	20%	0	0%	0	0%	5
	02: 教育の充実	4	80%	1	20%	0	0%	0	0%	0	0%	5
	03: 社会貢献	2	100%	0	0%	0	0%	0	0%	0	0%	2
	04: 組織・体制整備	0	0%	4	100%	0	0%	0	0%	0	0%	4
総計		200	24%	437	53%	111	14%	50	6%	23	3%	821

%は四捨五入により合計 100%とならない場合がある。

※評価D及び判定不可は新型コロナウイルス感染症及び年度末実施事業が主な要因であった。

【大学】

1-1: 人材の確保と育成／学生

(1) 実績・長所

- ・各学部で入試形態別の在学生成績分析を実施し、優秀な人材確保に向けての活動を継続した。
- ・入試情報サイトのリニューアルや SNS を用いた戦略的広報の展開等、入試広報を強化した。
- ・公募制推薦において出願資格の見直しを行った。
- ・昨年度実施できなかったオープンキャンパスを予約制にして対面実施した。
- ・コロナ対応の一環として、地方入試の委託化を実施した。

(2) 課題

- ・引き続き、今後の状況に応じた受験生(留学生を含む)との接触方法を検討する。
- ・地方入試の完全委託化に向けた入試実施のオペレーション及びマニュアルの見直しを検討する。
- ・2022 年度入試から導入されたK方式の効果・課題の検証。

1-2: 人材の確保と育成／教職員

(1) 実績・長所

- ・本学 WebClass におけるルーブリック機能の活用やオンライン教育における著作物利用に関する支援をテーマとしてFDとして取り上げ、ICT の活用や他大学事例を紹介した。
- ・大学評価委員会及び各学部を中心とし、評価項目の見直し等、教員業績評価制度の改善を実施した。
- ・研究不正防止に向けた各種研修を充実させた。
- ・URA 導入により、学外資金獲得や企業連携を実施し、研究広報や分析についても検討した。

(2) 課題

- ・教育職員採用・昇任に関して、ポリシー実現に向けた教員組織編成方針の見直しを継続する。
- ・教育研究支援の充実に向け、特任助手制度を検証し、改善する。
- ・FD 参加率を向上させるとともに、ICT を活用した授業形態についてのスキルアップの取り組みを実施する。

2-1: 教育の充実／学びの促進

(1) 実績・長所

- ・データの蓄積により、学修成果の経年比較が可能となり、学修成果向上に向けた議論が浸透してきた。
- ・2022 年度から開講される「データサイエンス・AI 入門」について、データサイエンス教育検討WGにて教材や成績評価方法等開講に関する詳細な検討を行った。
- ・「学びのコミュニティ創出支援事業制度」において各部署での取り組みの恒常化を目的に 2021 年度から新規導入した「特別継続支援」において 9 件を含む 91 件の取り組みの実施を支援した。
- ・「名城大学チャレンジ支援プログラム」第 1 期生の成績及び学修モチベーション等の分析・検証を行った。
- ・アントレプレナーシップ教育推進に関する補助事業に参加した。
- ・社会連携センター活動活性化(各種ワークショップ、他大学・企業等との連携事業等)。
- ・対面による海外研修は実施を見合わせた。オンラインでの各種取組を工夫することで、学びを継続した。
- ・海外研修再開に向けて、全学指針を策定した。

(2) 課題

- ・大学評価委員会を中心とした「教学マネジメントシステムの実質化」を継続する。
- ・2022 年度から開講される科目「データサイエンス・AI 入門」の効果・課題の検証。
- ・感染予防を前提とした学修環境の整備。

- ・2021年度実施した「学びのコミュニティ創出支援事業」アンケートの検証及び各取組へのフィードバック、支援終了後の継続性の確認。
- ・学びの振り返りに加え、キャリア支援において学修ポートフォリオの活用を促進する等、利用状況の把握及び利用率向上の推進。
- ・Enjoy Learning プロジェクトの更なる活性化策の検討。
- ・国際化推進計画 2026 の前期評価検証と後期実施計画の策定。
- ・グローバルプラザの利用者数、中長期派遣留学の派遣者数、中長期派遣留学先、実外国人留学生数の増加。
- ・副専攻制度の充実に向けた取り組みの継続。
- ・全学的なアントレプレナーシップ教育推進のための組織整備。
- ・学生に関わるアンケート調査等の回収率向上を通じた学生動向のより正確な把握。
- ・コロナ禍で入学した学生に関するIRデータを作成し、継続的に把握するとともに、「カリキュラムの点検・評価のためのダッシュボード」の内容について継続的に見直す。

2-2: 教育の充実／大学院

(1) 実績・長所

- ・修了時アンケートを実施し、成績やアンケート等の IR データをダッシュボードとして作成し、大学評価専門委員会を通じて、研究科にフィードバックした。
- ・修士・博士前期課程において「学位授与方針対応表」を作成した。

(2) 課題

- ・単位制導入後の効果・課題の検証。
- ・収容定員の変更の入学者状況を確認し、今後に向けた対応策を検討。

2-3: 教育の充実／学生支援

(1) 実績・長所

- ・学生支援ポリシーを策定した。
- ・コロナ禍に対応した各種学修・経済及び施設環境整備を実施した。
- ・障がいを持つ学生向けの進路支援ガイダンスを実施した。
- ・対面での就職支援が難しい中、オンラインによる面談・サロンを実施した。
- ・学内持込PC等の接続サービスを充実した。
- ・性の多様性について、理念と対応ガイドラインを策定した。

(2) 課題

- ・引き続き、友人作り等の機会提供や、退学者防止への面談実施、就職関連行事への出席率向上に向けた工夫等、学生視点に立った取り組みを充実する。
- ・留年者及び退学者減少のため、留年・退学理由の分析及び対策を推進する。
- ・性の多様性について、教職員への啓発活動を推進する。

3-1: 研究の充実／研究推進

(1) 実績・長所

- ・URA活用等による産官学連携に向けたマッチング支援を実施した。
- ・科研費申請説明会・研究倫理・コンプライアンス教育の推進、安全保障輸出管理に係る啓発活動を実施した。
- ・公的研究費の管理監査のガイドラインの改正を受けた対応を実施した。

- ・学術研究奨励助成制度の制度変更を実施した。
- ・科研費功労賞を新設した。
- ・コロナ禍で各種学会開催・共同研究実施に影響があったものの、オンラインによるバーチャルリサーチフェア開催等をはじめとする学術研究内容の社会への発信を行った。

(2) 課題

- ・科研費等外部資金獲得への取り組みについて、各学部との協力のもと、申請率向上に向けた取り組みを継続する。また研究シーズ集等における教員の研究成果公表数の増加も必要である。
- ・URAの活動の更なる活性化。
- ・補助金要件を参考にし、社会的に要請される研究基盤を整備する。

3-2: 研究の充実／国際的研究拠点

(1) 実績・長所

- ・研究ブランディング事業終了後も採択済 2 事業を継続し、本学の特色として推進している。

(2) 課題

- ・上記 2 事業に続く国際的研究拠点の形成が必要である。

4-1: 社会貢献

(1) 実績・長所

- ・教育研究活性化に向け、他大学・自治体・企業等との協定締結を進めた。
- ・社会連携センターの活動を通じ、学内と学外とのマッチングに基づく活動が活性化している。
- ・コロナ禍の中、オンライン・対面等手法を工夫したうえで、公開講座・出前講義等を実施した。
- ・専攻科において、第 2 期指定管理法人に申請し、選定された。

(2) 課題

- ・社会連携活動の学内における認知度の向上及び参加者確保。
- ・社会人の学び直しに資する大学独自の企画の実施。
- ・社会貢献に向けた学内リソースの見える化。

5-1: 組織・経営改革／組織の活性化

(1) 実績・長所

- ・内部質保証において、各種ポリシーの策定、評価活動に学外有識者の参画、全学版「自己点検・評価報告書」作成等を通じ、活動 活性化を図った。
- ・競争的補助金事業である私立大学等改革総合支援事業では、全学協力のもと要件充足に向け取り組み、全 4 タイプ中 1 タイプでの採択に至った。
- ・情報工学部開設に向けた組織の体制構築と受験生募集の広報を実施した。
- ・事務組織を中心とした業務改善活動を推進した。
- ・インターナショナル教育・研究センター設置等を通じ、国際化の一層の推進に向け充実を図った。
- ・web 会議システムを活用した会議運営のICT化を推進した。

(2) 課題

- ・内部質保証実現に向け、引き続き、大学評価委員会を中心とした「教学マネジメントシステムの実質化」を継続する。(2-1(2) 教学マネジメントと重複)
- ・志願者獲得に向けた戦略的入試広報の継続実施。
- ・規模適正化を図った大学院への志願者の確保を行う必要がある。(2-2 教育の充実／大学院と重複)

5-2: 組織・経営改革／ブランド力の向上

(1) 実績・長所

- ・株式会社リクルートマーケティングパートナーズが実施した、高校 3 年生が選ぶ「志願したい大学ランキング」において、5 年連続で東海エリア 1 位を獲得した。
- ・記者会見、記者懇談会、プレスリリース、大学ホームページ・交通・新聞広告等を活用した広報を展開した。
- ・これまで参加していたTHE社の大学ランキング(世界・日本)に加え、インパクトランキング(SDGs)に参加した。
- ・カーボンニュートラル、SDGsに対する基本方針を策定した。
- ・広報戦略を策定した。
- ・SNS動画を活用した大学ホームページからの情報発信強化。

(2) 課題

- ・継続して大学ホームページや SNS を活用した大学広報を推進する。
- ・THE大学ランキングの向上に向けた施策の検討。

5-3: 組織・経営改革／基盤整備

(1) 実績・長所

- ・開学 100 周年事業においてスローガンとシンボルマークを策定し、周年事業の企画立案を推進した。
- ・ガバナンス強化等に係る寄附行為の改正を行った。
- ・入学定員厳格化に伴う収入減等への対応として、経費節減・予算査定等の厳格化を行った。
- ・研究実験棟IV竣工。

(2) 課題

- ・中期事業計画に基づく各種事業の進捗管理を推進する。
- ・全学共用棟等再開発計画の円滑な推進を図る。

【高校】

1: 人材の確保と育成

(1) 実績・長所

- ・志願者数は 5,895 名(前年比 82%)、入学者数 695 名となり、学則定員を確保した。
- ・志願者数は 20 年連続で愛知県 1 位。

(2) 課題

- ・大学の受験日程と高校の受験日程で調整が必要な場合の対応の検討。
- ・戦略的入試広報の強化。

2: 教育の充実

(1) 実績・長所

- ・到達度テストを用いて生徒一人ひとりの基礎学力の到達度を網羅的に測り、つまづきをあきらかにし、苦手箇所にあわせた課題を個別配信した。
- ・アクティブラーニング研究会を開催し、探究学習推進に向けた ICT 活用研究を推進し、授業の在り方を検討した。
- ・例年の国際化プログラムは新型コロナウイルス感染症の影響から中止したが、オンラインでのインドネシアやタイとの協働学習やフィールドワークを実施した。
- ・1、2年生全員 1325 名で行う探究活動行事、「探究 Day」を開催した。

(2)課題

- ・国際化プログラムにおいて、オンラインを含めたプログラム実施の方法を検討する。

3:社会貢献

(1)実績・長所

- ・地域のハザードマップの変更や避難所での感染症防止に対応した避難所マニュアルを中村区役所防災担当と作成した。

(2)課題

- ・避難所マニュアルを更に見直し、地域住民に周知徹底を行う。

4:組織・体制整備

(1)実績・長所

- ・100周年に向けて、新規同窓会会則を制定する等、同窓会役員組織の見直しを行った。
- ・中期事業計画のKPIである満足度調査を生徒と保護者に行った。
- ・ガバナンス強化等に係る寄附行為の改正を行った。

(2)課題

- ・100周年に向け、同窓生と在校生が交流する機会をさらに充実する。
- ・中期事業計画に基づく各種事業の進捗管理を推進する。

以上